

人文学部卒業研究

題 目 インターネットにおける都市伝説

指導教授 山本 明 印

提出年月日 2018年 12月 14日

学籍番号 HI14046

氏 名 平井 隆也

インターネットにおける都市伝説

HI14046 平井隆也

要旨

インターネットが発達し、現在のインターネットには膨大な情報がある。その中でインターネット上に存在している都市伝説には、様々な種類、内容のものが存在している。インターネット上に存在している都市伝説には、どのような特徴がありどのような要因により、広がっていくのかを明らかにするのが本研究の目的である。

第1章では研究を始めるにあたって、うわさとは何か、都市伝説とは何か、うわさと都市伝説の違いとは何か、インターネット上にあるうわさや都市伝説はどのようにして広がっていき、どのように様々な人に伝わっていくかについての先行研究をまとめた。第2章では研究課題と研究方法について、どのような方法でどのような観点から研究をするのかを、記述した。インターネット上に存在する都市伝説には、様々な特徴が存在する。本研究では都市伝説のジャンルや時代、地域、内容属性(面白さ、不安喚起、もっともらしさ、確実性)、内容機能(娯楽機能、会話機能、情報提供機能、情報収集機能)が既存のうわさ研究における知見と同様に、インターネット上の都市伝説を拡散させる要因になっているのかを解明していく。インターネット上の都市伝説の収集をして、収集した都市伝説を、エクセルを用いてグラフをまとめ、竹中(2007)の内容属性(面白さ、不安喚起、もっともらしさ、確実性)と内容機能(会話機能、娯楽機能、情報収集機能、情報提供機能)を軸にして研究を行った。第3章では、研究結果について述べている。ジャンル別集計結果では、怖い話が一番多い件数であった。地域別集計結果では、日本で調べたからなのか日本が一番多い結果となった。内容属性別集計結果では、内容属性としてもっともらしさを持つ都市伝説が多い結果となった。内容機能別集計結果では、会話機能を内容機能として持つ都市伝説が多い結果となった。都市伝説の対象が日本のものに限定した、ジャンル、内容属性、内容機能別集計結果でも全体での集計結果と同じ結果になった。内容属性として不安喚起を持つ都市伝説では、内容機能の面で情報提供機能が多くなるといった結果も得られた。終章では本研究の結論と反省、今後の展望について記述している。

キーワード

インターネット、都市伝説、うわさ、内容属性、内容機能

目次

序章 はじめに.....	1
第1節 本研究の目的と意義	1
第2節 本論文の構成	1
第1章 インターネット上の都市伝説とうわさの先行研究.....	2
第1節 インターネット上の都市伝説とうわさの先行研究	2
第2節 SNS とうわさ	3
第2章 研究課題と研究方法	7
第1節 研究課題	7
第2節 研究方法	8
第3章 内容分析	8
第1節 目的	8
第2節 方法	9
第3節 結果	9
第4節 考察	31
終章 結論	32
第1節 成果のまとめ	32
第2節 反省と今後の展望	33
参考文献	34
参考サイト	34